

古事記・日本書紀に親しむ 参加予定のみなさまへ

疫病退散！巣ごもり期間企画 古事記・日本書紀の疫病 にかんするお話

其の2 令和2年6月17日付

新川神社 宮司 船木信孝 筆

みなさん、お元気でしょうか！宮司の船木信孝です。
現時点で全国の非常事態宣言は解除され、富山県独自の自粛
ガイドラインはステージ1に移行いたしました。今後第2波が
押し寄せるかもしれないことを含みまして「古事記・日本書紀に
親しむ」の開催は7月からとします。しかしながら、状況により
国の緊急事態宣言、もしくは県の自粛ガイドライン「ステージ2」
が発令された時点で休講とさせて戴きたいと思います。

「古事記に親しむ」 昼の部：7月27日(月) 午後2時～4時

夜の部：7月29日(水) 午後7時～9時

「日本書紀に親しむ」 夜の部：7月27日(月) 午後7時～9時

昼の部：7月29日(水) 午後2時～4時

第一回目は上記の日程になりますが、仮に前日に国の緊急事
態宣言、もしくは県の自粛ガイドライン「ステージ2」が発令され
た場合、みなさんへ休講の案内が間に合わない状況もあります
ので、連絡が無くても国、もしくは県の行政宣言が優先されます

ので「不要不急の外出の自粛」が出たら休講、お互いにそのような共通認識でいきましょう。

今現在、「古事記・日本書紀に親しむ」参加申し込みは延べ 181 名、重複を除きますと実質 130 名の方がエントリーされています。この巣ごもり期間を逆に有意義に過ごして戴ければ幸いです。

現在巷では「クタベ」「アマビエ」という霊獣・妖怪が人気を集めています。良いですねー。妖怪や伝説は社会の危険回避に役

立っていたのですね。「妖怪」を学術的に研究している大学の事を取材したドキュメンタリーを見たことがありますが、「目に見えない物の存在」を「ものがたり」にして伝える事によって、危険を避けたり心の安定を促したのでは無いかということです。

左:新川神社権禰宜 米田昌功筆



一番効果的なのが「妖怪のはなし」だったのです。「あの山に登

ると山姥に食われる」とか、「あの川に行くと河童にだまされる」とか。

今回の疫病には「アマビエ」も「クタベ」も「自らの姿を書き写して広めろ」と「お告げ」をします。これは何を意味するのでしょうか？

私は「写経」の効果との類似性を感じております。



疫病が流行ると不安や恐怖、対人間のトラブルなど社会が不安定になります。疫病は「得体の知れない何か」ですので、ここに対して「**得体の知れない妖怪**」を写経のように書き写すことで**メンタルの安定が図れる**ことを感覚的にとらえて、だれともなく発信したのでは無いでしょうか。

昔も疫病が流行ると「ステイ・ホーム」だったはずですが、テレビもラジオも無い空間では何もする

ことがないと余計に要らんことばかりかんがえてしまうので絵を描き写せ、とおっしゃったのでは無いかと思うわけです。

「写経」ですと漢字ばかりでハードル高いですけども、絵ですと子供でも描けますからね。

妖怪って良い物か悪い者かわからない
ビミョーな存在ですし、どちらかという
善悪両方を備えている様に感じます。
トランプのジョーカーみたいなもので
かね。毒は毒で征す、みたいな。そうや
って非常事態の危機を救う象徴的なモ
ノとして「物の怪=妖怪」が具現化され
たのではないかと思います。

一見、意味の無いような迷信でも実は
メンタルに効くんですね。私は「おまじ
ない」って効くと真面目に考えていま
す。神道のお祓いも神主が「祓える」と
信じて祓わないと祓えないと思いま
すし。

このような疫病に関する伝説は本当に各地にたくさんありまし
た。今はこのような事態になるとは思わなかったので次第に昔
の事として影に隠れてしまった感がありますが。

では、神道では？ということで、いよいよ真打ちの登場です。登
場神物(とうじょうじんぶつ)は

「大物主神(おおものぬしのかみ)」「素盞鳴命(すさのおのみこ
と)」「大己貴命(おおなむちのみこと)」「崇神天皇(すじんてん
のう)」です。



古事記・日本書紀に見える日 本最古の疫病の記録

第10代崇神天皇(すじんてんのう)の御代に国民の半数以上が死ぬという激しい疫病(えやみ)が流行します。我が身の不徳からと一心に御公務に励まれ、天神地祇(あまつかみ・くにつかみ)にお祈りされました。



宮中に三種の神器である八咫鏡を依り代としてお祭りされていた天照大御神と日本大国魂神の御神威を恐れられて、キチンと神社にお祭りした方が良いのではないか、私が住んでいる場所に一緒にお祭りしているから疫病が流行ったのでは無いかと思われ、鎮座地を求める旅を豊鋤入姫命(とよすきいりひめのみこと)に依頼され、とりあえず笠縫邑にお祭りされました。

しかしながら、疫病・災害はとどまることをしらず、この国難に際して突破口が見つからない崇神天皇はどうすればいいのか、ついには神におうかがいをたてる神床(かむとこ)という「夢占(ゆめうら)」を行われます。

これは身を清めて精進潔斎してから「なにゆえなる理由によるわざわいなのか、吾にさとしたまえ」と祈りを捧げてから床に就

きますと、夢に神が現れてお告げをされる、という神のお告げをいただく方法のひとつです。

夢に現れたのが「大物主神(おおものぬしのかみ)」で、「オオタタネコという者を神主として我を祭れば神の気(かみのけ)は起こらず、国は平和に治まるぞ」とお告げをされます。そこで崇神天皇は大喜びされてお告げのまにまに、オオタタネコを探し当てて神主として奈良の三輪山に大物主神を讃える祭祀を執り行い、併せて天つ神と国つ神をお祭りする神社を定めて

「ことごとに残し忘れること無くお供え物をたてまつられました。これによって疫病ことごとくに終息して国家安泰になりました。」

と古事記は語ります。日本書紀にはもう少し詳細な経緯が語られていますが、双方ともこの疫病の蔓延で国難を迎えたときにその「突破口」として

(1)「国つ神・土地神の神祭り」を大切にすること

(2)天皇自らでは無く、土地神の子孫にあたる者を

「神主」として祭祀をすること

を伝えています。天皇家の先祖神である天照皇大御神の崇りではなく、大物主神の「神の気(かみのけ)」だ、というところがミソです。

大物主神は単なる「崇り神」ではありません。神様というものはちゃんとお祭りをされないと、神様の御神威(ごしんい)が弱くな

り、災いを鎮める霊力が弱くなり、禍を鎮めることができなくなることを意味しています。

神様が怒るような事が事前にあったということです。ここを読み違えることがよくありますので、「親しむ会」ではゆっくりといねいにご説明してみたいと思います。

その後、崇神天皇は「神祭り」で国難を乗り越えたことに感謝をして御神前に御神酒を奉納され酒宴をおこなわれます。これも非常に大事です。

「祈願をして叶ったならば御礼のお供え物をする」

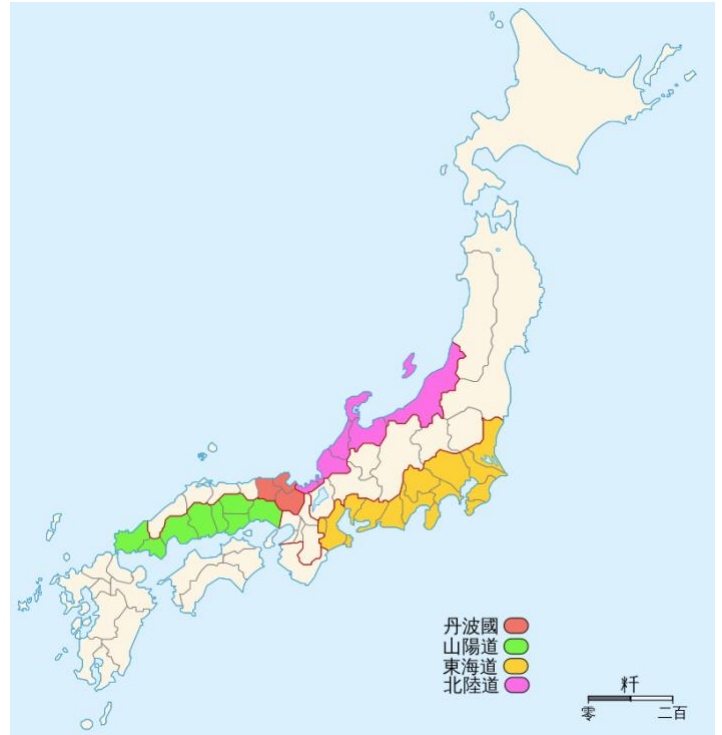
我々の人間社会でもそうですよね。そして願いが叶わなくても御礼のご報告をすると良いみたいです。なぜなら、願いが叶わなくとも、その方が結果として良い人生の方向付けになるということだからです。受け取り方はその人次第ですが。

さて、話は戻ります。この国難である疫病沈静化を成し遂げた崇神天皇は、疫病によって国家鎮護の三輪山祭祀、伊勢神宮の創建を実践され、そして最後により広い地域の安定を図るために「四道将軍(しどうしょうぐん)」という皇子を将軍に任命し地方に派遣されます。この時の崇神天皇の御言葉が日本書紀に書いてありますので、口語訳を掲載します。

「民を導く根本は教化にある。(※民に現世のことわりを教えて考えを変えることにある。)今、すでに天神神祇(アマツカミ・クニツカミ)を敬い、災害(ワザワイ)は全て消えてしまった。しかし、遠くの国の人民はまだ(現世の理を)知らない。未だに王化(キミノオモブケ

＝天皇の考えに従う)に慣れていない。群臣から選び、四方に派遣して、わたしの憲(ノリ)を知らしめよう」

我が故郷である富山県はこの当時「越の国」ですので新潟・石川・福井を含めた地域であり、この北陸道に進駐されたのが「大彦命(おおびこのみこと)」です。富山の各地の神社に四道将軍である「大彦命」を祭る神社と伝説が残されています。



射水郡作道鎮座の「道神社」

や八尾の杉原神社には当時の縁起が伝わりますので杉原神社の HP から疫病を鎮めたかみまつりの縁起を引用します。

「十代崇神天皇即位十年に大彦命が勅命を受けてこの地にとどまり耕作の道を教え給うたとき、この地に疫病が流行し、民死するもの多かった。命大いにこれを憂い給ひ、巨大なる杉樹を神と崇め、種々供御を為し尊崇されたところ悪疫止んだので、住民喜び、その後この樹下に祠を建て神像を刻んで祀り、「辟田(さいだ)の社」と称した。」

崇神天皇は四道将軍に「耕作の道を教える」という稲作を伝播させる事業を拡大するために派遣されたことがうかがえます。併せてやはりまた疫病が流行した際に「神祭り」を伝えたこともわかります。神社創建のいきさつが明確にわかる縁起の一例ですね。

疫病をおこした神であり沈静の神である大物主神とは？



この絵は参集殿にかけてあります「三輪山旭日(みわやまきよくじつ)」と名付けられた絵です。

平成 28 年に新川神社新庄遷座 400 年慶祝として奉納いただきました絵です。作者は「三輪晃久」様です。

「オオタタネコ」の子孫に当たる「三輪家」の血筋の方です。三輪家は元々奈良の三輪山の麓に鎮座の「大神神社(おおみわじんじゃ)」の神主家で、三輪晃久さまの祖先は新庄城主・三輪飛騨守長職にあたられますので、新川神社とは深いご縁がございます。

この絵に描かれた三輪山に「大物主神」が今でもお祭りされています。この三輪山に「大物主神」をお祭りしましたのが「大己

貴命(おおなむちのみこと)」、後の出雲にお祭りされる**大国主神(おおくにぬしのかみ)**です。出雲大社の御祭神です。**神様が神様をお祭りした、ということになります。**

私はやおよろずの神々の中でも大物主神は**「神様の中の神様」**だと思います。なぜなら

- (1) 光輝くものすごい靈力を宿した神様
- (2) 得体が知れない、謎に包まれた神様
- (3) どんな者にも姿を変えることが出来る神様
- (4) 皇室・国家鎮守神
- (5) 大国主神がお祭りした日本最古の神社のご祭神

以上のような、古事記・日本書紀に出てくる神様の中でもダントツに**「人智を越えて存在する威力のある靈的存在」**だといえます。

余談ですが、実は新川神社に長年縁起が良くわからない「園(その)神社」という境内社が合祀されていたようで、色々調べていますと最近わかりましたのが、宮中の鎮守神として祭られている神社が同じく園神社と云いまして、御祭神はなんと、**「大物主神」**です。しかもどうやら三輪氏が産土神である三輪山の神を皇居の守護神として奉斎したという可能性が在り、同じく新庄城主・三輪飛驒守が産土神として新川神社を篤く崇敬したと口伝で伝わりますので新庄城下の鎮守神として大物主神を奉斎され、園神社と名付けられたのでは無いかと推察しております。

つまり、**新川神社には大物主神が奉斎されていますので「疫病鎮静」の御利益があるということになります。**イコール、お祭りを

いい加減にすると怒られる、ということになりますので宮司、毎朝命がけでお祈りいたしておりますのでご安心下さい。

大物主神は「神様の中の神様」だ、こういいますと、あれっ、伊勢神宮の天照大御神が最高神のはずなのに神主さんはなんてことを言うんだらう？と思われるムキもいらっしゃると思います。

そうです、おっしゃるとおり、天照大御神は現在でも皇室の祖先神で国家鎮護の最高神です。ですが、その子孫である歴代天皇がこの日本の国の現世を平和に、政治的に治めるにあたり、この国の土地土地に宿る土地神・邪霊・物の怪を治める霊的な存在である「大物主神」の祭祀をする事が「条件」だからです。大物主神(オオモノヌシ)の「物」は「精霊・もののけ」を意味します。ですから疫病などの「精霊・物の怪」を自由に操ることができるのだとおもいます。物部氏(もののべし)という軍事氏族も「精霊・物の怪」担当の氏族です。神職の家系が多いです。モロに「物部さん」という神主さんおられますし。我が船木家も物部系ですけど。

ではこの「条件付き」はいつ、どこで「条件付き」になったのでしょうか？

それは古事記・日本書紀に「大国主命」と「少彦名神」が協力して国づくりをしたのですが、最後の最後に「何か一つ」が足りていませんでした。それについて少彦名神は「それがなにか？」をわかってはいたのですが敢えて大国主命には告げずに忽然と姿を消します。

今まで二神で協力して国づくりをしてきたのに急にひとりぼっちになった大国主命は不安になり、今後どうすればいいのか、わからなくなっていました。浜辺で途方に暮れている処へ海の

彼方からあやしい光に包まれて浮かんでくるものがありました。その者は古事記では「私に対してよくお祭りをすれば私が一緒になって国づくりをつくろうぞ、そうでなければ国づくりは成し遂げられんぞ」とお告げをします。

大国主は素直に「それではどのようにすればよろしいですか？」とお伺いいたしますと「大和の三輪山へ祭ってくれ」ということでそれに従われました。

日本書紀では少しだけ表現が違いまして、大国主命は

「今この国を平定したのは私一人で成し遂げた事だ、今後私と共に天下を治める者はいるはずがないやろう！」

とゴーマンで高飛車な発言をします。そうしましたら古事記とやはり同じ登場の仕方で海の彼方から光輝くあやしい者が近づいてきておっしゃるには

「もしワシがおらんにゃおまえはどうして良くこの国を平定することができたとおもっとんがよ、ワシの存在があったからこそ、おまえはこの国を平定するという大きな功績を立てることができたがいぞ！」

と大国主命の高飛車な発言を諫める神が現れました。

大国主命はビビりまして素直に

「そういうあなたはいったいだれなん？」

と聞き返します。そこで返ってきた言葉がナント、

「我はなんじの幸魂・奇魂である」

ですよ。すごいですね。**自分の和魂(幸魂・奇魂)に怒られるん**ですからね、普通ならビックリして余計に怪しい、と感じるはずが、此所は大国主命、やはり器が違います。

「はい～、わかりました～。」と素直に受け入れ、
「何処に住みたいと思われませんか？」とお伺いを立てますと

「大和国の三輪山に住みたい」

と申され、三輪山祭祀の起源が語られます。ですから大神神社の御祭神は公式ホームページには大物主神、配神(はいしん)として大己貴神・少彦名神がお祭りされています。

そしてその後は大国主の国土経営は順風満帆、平和な日々ではありましたが、色々と紛争が絶えずに騒がしい国でありました。それを高天原から見ていた天照大神がご自身の子孫が直接統治してより安定的な国づくりをせなあかんな、とお感じになりまして今の天皇家の先祖である「邇邇芸命(ににぎのみこと)」の天孫降臨が行われる訳ですが、その前に大国主命に「国譲り」を打診するわけです。※これを「天降り」と、現世でも使われますね。ここが語源だったりします。

すったもんだして国譲りが終えて初代神武天皇が数多の戦を終えて橿原の宮で御即位されて以来、平和な日々がつづいていたところ、何故に第10代崇神天皇の時にこの三輪山の神が「神の気」により疫病が起きてしまうのか？この続きは「親しむ会」でお話したいと思いますが、要は

「神まつりをおろそかにすると神様の御神威・霊力が弱まってしま

まう」
ということでしょうか。

それと、皆さんの神棚にも必ず神宮大麻(天照大御神)と**地元**
の氏神神社の御札をお祭りしますよね。その理由が是に秘めら

れて居るわけです。すごいですね。此は神道の極意とも云えます。意外に訳もわからずお祭りしてたりしますが、ちゃーんとそこに至る物語りがあったのです。

+++++++余談+++++++

私は昔からこの「大神神社※大三輪(おおみわ)とも書く」を篤く崇敬しております、神様のファンクラブであります「大神神社崇敬会」にも入会しております。

神社の崇敬会、今で云うファンクラブって良いもんですよ～。季節ごとに祭典の案内や神社の社報や会員会報など送付されてきますし、年末には大神神社の御札やしめ飾りの御守り、お誕生日には御神前でお誕生祭のお祈りをして戴いた御札も貰えるんですよ。これだけたくさんいただいて年会費 5,000 円ですよ。安すぎます。元、取れてるんですかね？

私は他にも今までお世話になった神社の崇敬会に入会しております。伊勢神宮、石清水八幡宮、大神神社、明治神宮、石上神宮の神様ファンクラブ会員ですので毎年年末には欠かさずそれぞれの神社の御札が年末に送られてきますので、船木家の神棚は最強ですよ。



最後に夏越の大祓のご案内です

6月30日と12月31日に行われる除災行事であり、犯した罪や穢れを除き去るための祓えの行事で、6月の大祓を「夏越の祓(なごしのはらえ)」、12月の大祓を「年越の祓(としこしのはらえ)」といいます。

6月の大祓は茅の輪くぐり祭とも呼ばれますが元々疫病除けのお祓いであるようです。

6月は梅雨の時期で湿度が高くなり細菌が活性化するに先だって肌着、下着を衣替えして病原菌の繁殖を抑える意味があったとされています。

拾遺和歌集に「題しらず」「よみ人知らず」として、

「水無月の なごしの祓する人は

ちとせの命 のぶというふなり」

という歌が載せてありますように無病息災を祈る神事です。

「茅の輪くぐり」は参列者が茅草で作られた輪の中を左まわり、

右まわり、左まわりと八の字に三回通って穢れを祓うものです。この茅の輪は母親の「胎内くぐり」とも解され、新たに生まれ変わる、魂を刷新する意味もあると云われております。



『釈日本紀』(ト部兼方 鎌倉時代中期)に引用された『備後国風土記』逸文にある「蘇民将来(そみんしょうらい)」神話では茅の輪を腰につけて疫病から免れたとされ、茅の旺盛な生命力が神秘的な除災の力を有すると考えられてきました。

その疫病除けの茅の輪御守りの説話を最後に紹介いたします。古くは鎌倉時代中期のト部兼方『釈日本紀』に引用された『備後国風土記』の疫隈国社(えのくまのくにつやしろ。現広島県福山市素盞鳴神社に比定される)の縁起に見えるほか、茅の輪の祭祀起源譚としておおむね似た形で広く伝わっています。

『備後国風土記』逸文にある「蘇民将来(そみんしょうらい)」

むかし、武塔神(むとうしん)が求婚旅行の途中、宿を求めたが、裕福な弟将来はそれを拒み、貧しい兄蘇民将来は一夜の宿を提供した。後に再びそこを通った武塔神は兄蘇民将来とその娘らの腰に茅の輪をつけさせ、弟将来たちは宿を貸さなかったという理由で皆殺しにしてしまった。武塔神は「吾は速須佐雄の神なり。後の世に疫気あらば、汝、蘇民将来の子孫と云ひて、茅の輪を以ちて腰に着けたる人は免れなむ」と言って立ち去った。

この逸話にちなみまして宮司自作の「茅の輪御守り」を夏越の大祓参列者におわかちいたしておりますので、新型コロナウイルス除けとして是非ご自宅の玄関にお祭り戴きまして無病息災でこの難局を乗り切りましょう。

と、いうことで7月お元気で皆様にお目にかかれる日を楽しみにしております。